



次世代リーダー育成のために

親愛なる友人の皆さま、

TOMODACHIイニシアチブへのご支援に感謝申し上げます。COVID-19の世界的感染が広がる異常な状況にあっても、TOMODACHIイニシアチブは次世代リーダーの育成と日米両国間の関係強化に引き続き注力しています。

在日米国大使館とTOMODACHIイニシアチブは共に、パンデミックがもたらす新しい現実に向き合い、適応しなければなりません。私たちは、参加者やスタッフの健康と安全を最優先に位置づけ、多くのTOMODACHIプログラムをオンライン形式に変換し、参加者に機会を提供し続けました。私たちは共に、プログラムをオンライン形式で効果的に行う方法を工夫し、プログラム参加者にとってのオンラインならではの利点も発見しました。

コロナウイルスによって移動や対面での活動が制限され始める直前の2020年2月、在日米国大使館は特別なディナーイベントを主催し、TOMODACHIを支援する主要企業の代表者と、元駐日米国大使のジョン・ルース氏および夫人のスージー・ルース氏を招待しました。そこで企業の経営幹部各位は、TOMODACHIの価値と次世代のリーダー育成へのコミットメントを再確認しました。

米日カウンシル創設時からの会長であるアイリーン・ヒラノ・イノウエ氏が、4月に亡くなりました。アイリーンは人と人とのつながりを通じて日米関係を強化することに人生を捧げました。そしてTOMODACHIイニシアチブは彼女の偉業の一つでした。アイリーンの遺志は、彼女に深く影響を受けた私たち全員によって引き継がれます。

また、ブラック・ライブズ・マター運動に見られるように公民権への関心が高まり、TOMODACHIは新シリーズのTOMODACHIクリティカル・カンパセーションズを立ち上げ、TOMODACHIアラムナイと一般参加者が共に学び、考えを共有する安全なスペースを提供しました。12月の次世代サミットでは、TOMODACHIアラムナイ、渡邊利三寄付奨学生、その他のプログラムの若いリーダーが集まり、Reflective(思慮深い)、Resilient(回復力のある)、Revolutionary(革新的な)の三つのテーマについて話し合いました。

発足以来、9500人を超える若者が333のTOMODACHIプログラムに参加しています。今日では、東北との長年の絆を保ちながら、TOMODACHIはより多くのアメリカ人の若者と日本中の若者に引き続き支援を広げています。

これらの若いリーダーをサポートし、彼らが視野を広げて夢を実現するというビジョンを共有するファウンダー、スポンサー、実施運営団体や支援者の皆さまに深く感謝申し上げます。米日カウンシルと在日米国大使館は、日本政府や他の多くのパートナーと協力して、日米の次世代リーダーに人生を変えるような機会を提供できることを誇りに思います。

日米関係の未来への皆さまのコミットメントに、心からの感謝を申し上げます。

Joseph M. Young

駐日米国臨時代理大使
ジョセフ・M・ヤング

Suzanne Basalla

米日カウンシル 会長兼CEO
スザンヌ・バサラ

アイリーン・ヒラノ・イノウエ氏
1948-2020

「世界中から集まった人々は、それぞれ異なると同時に、素晴らしい共通点も持っていました。このような出会いの経験は、人間性をより豊かにするためにとても重要だと思います。」

コリン・ティーママン



使命

TOMODACHIイニシアチブは、米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道支援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本はTOMODACHIイニシアチブを開始しました。TOMODACHIは在日米国大使館と米日カウンシルが主導し、日本国政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協調的で繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。

将来

TOMODACHIイニシアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして「TOMODACHI世代」を育成するアラムナイ(プログラム経験者)・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

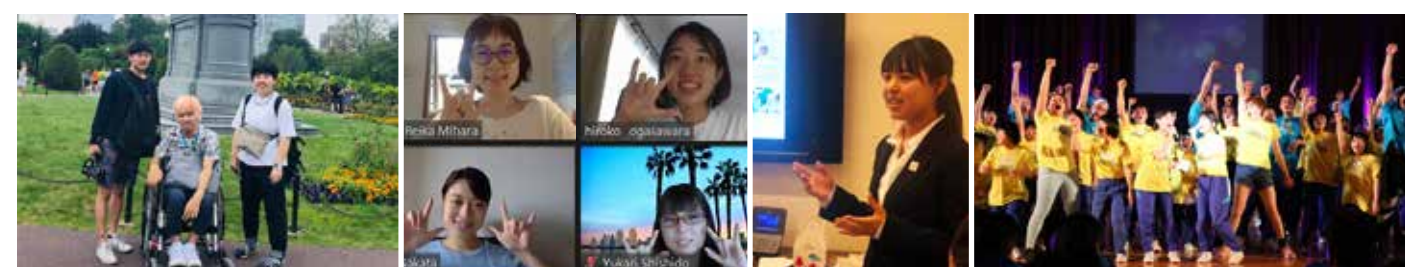
プログラム

教育プログラムは、短・中・長期の留学体験を通じ、互いの文化に触れることで、日米両国の若者の交流を活性化また拡大し、彼らの人生に刺激を与えます。

文化交流プログラムは、スポーツや音楽、芸術分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、関心を継続していくためのきっかけを提供します。

リーダーシップ・プログラムは、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

アラムナイ・プログラムは、TOMODACHIアラムナイ(プログラム経験者)が、スキル、経験、自信を身に付けることで夢を実現し、多様な文化を理解する次世代リーダーとなるよう支援します。



TOMODACHIの生涯にわたる道のり

TOMODACHIは、生涯にわたる経験を通じて、多文化な若者向けリーダーシップ育成を支援しています。





歩みを止めない —次世代リーダーの育成—

ストラテジック・パートナー

TOMODACHIイニシアチブを支援するストラテジック・パートナーは、ユニークな機会を提供する特別なプログラムを通して、次世代を担う若者の人生に大きな影響を与えています。

2020年には、高校生から若手社会人までの参加者が、ストラテジック・パートナーの支援で実施されたさまざまなプログラムに参加しました。

2021年以降もTOMODACHIイニシアチブは、ストラテジック・パートナーの支援を通して多様な次世代リーダープログラムを実施します。



TOMODACHI 日本アムウェイ財団
東北ミライリーダー・プログラム

本プログラムは、観光分野に特化した、東北地方を活性化する次世代リーダーの育成を目指しています。高校生を対象とし、日米での研修を通して、まちの魅力を再発見し、さらなる地域活性化を図ります。



TOMODACHI ゴールドマン・サックス・
ミュージック・アウトリーチ・プログラム

本プログラムは、アメリカの非営利団体「ヤングアメリカンズ」が、東北の小・中・高校生を対象に歌とダンスを駆使したワークショップを行います。世界共通言語である音楽を通して共に学び、お互いの強みを尊重し、潜在能力を見出します。



Building the TOMODACHI
Generation: Morgan Stanley
Ambassadors Program

本プログラムでは、参加者が市民社会やセクターを横断したパートナーシップについて理解を深め、日米の社会的な課題に取り組みます。2020年には、21名の日米の大学生が、市民社会への理解やチームワーク力、グローバルに協調するスキルを強化しました。



TOMODACHI 女子高校生キャリアメン
タリング・オンライン・プログラム in 東北
supported by TOMODACHIコンビニ基金

2020年に新設された本プログラムは、東北3県の女子高校生を対象とし、オンラインで開催します。異文化交流や仲間との議論、留学生や社会人女性との出会いを通じて、挑戦すること、未来を切り拓くことの大切さを学びます。



TOMODACHI Honda グローバル・
リーダーシップ・プログラム

本プログラムは、夢を原動力に挑戦する人々との出会いや企業活動に触れることで、夢を実現する力とグローバルな視点を持つ次世代リーダーの育成を目指します。2020年は、2019年プログラムの事後研修が開催され、9ヶ月間の学びを締めくくりました。



TOMODACHI-Mitsui & Co.
Leadership Program

本プログラムは、日米の各分野で活躍する若手社会人を対象に、両国への訪問やビジネスリーダーとの議論を通し、日米関係の強化に貢献する次世代リーダーの育成を目指します。2020年は、プログラムが与えたインパクトについて日米のアラムナイが共有しました。



TOMODACHI サマー・ソフトバンク・
リーダーシップ・プログラム

本プログラムは、東北3県の高校生を対象に、カリフォルニア大学バークレー校での課題解決型ワークショップに参加し、地域の活性化について学びます。2020年は、2019年プログラムの事後研修が行われ、それぞれが取り組む課題について議論しました。



TOMODACHI J&J 災害看護研修プログラム

本プログラムは、日本における災害看護を学ぶ学生の専門知識の深化、次世代を担うリーダーの育成を目的としています。2020年は、2度のオンラインセッションを通して、米国の看護師との交流やプログラムの学びの振り返りを行いました。



TOMODACHI・MUFG国際交流プログラム

本プログラムは、日米両国での交流プログラムを通して、お互いの社会についての理解を深め、持続可能な社会実現に向けた取り組みやリーダーシップについて学びます。2020年はプログラムのアラムナイが「次世代サミット」でプログラムでの成長を発表しました。



TOMODACHI サントリー音楽奨学金

本プログラムは、日米関係の強化に熱意を持ち、音楽を通してお互いの国の文化や価値を認め、グローバルなマインドセットを持った、米国音楽大学に進学する日本人学生を支援します。2020年は、プログラムのアラムナイが米日カウンシル主催のバーチャルイベントで演奏を披露しました。



TOMODACHI MetLife Women's
Leadership Program

本プログラムは、世界を舞台に活躍する次世代の女性リーダーの育成を目指しています。リーダーとして必要なコンピテンシーを中心にデザインされ、2020年は参加者がコンピテンシーを具体化できるようバーチャル・パネルディスカッションが開催されました。



TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム

本プログラムは、財政援助を必要とする日本の学部生を対象とし、1年間の米国留学を支援しています。日米の懸け橋として活躍する、グローバルな視点を持ったリーダーを育成し、2020年は2019-2020年派遣生の帰国後報告会をオンラインで開催しました。



TOMODACHI-UNIQLO フェローシップ

本プログラムは、将来グローバルに活躍する経営者やデザイナーを目指し、米国のファッション系の大学院に留学する、日米の懸け橋となる若手リーダーを育成します。2020年は、2名の才能ある学生が選出されました。

一般基金プログラム



スポンサーやサポーターと称される協賛・支援企業・個人からの寄付が、教育プログラムや文化交流プログラム、リーダーシップ・プログラムなど幅広いTOMODACHIプログラムを支えています。2020年も中学生から若手社会人までの参加者が、日米両国について理解を深め、リーダーシップについて学ぶ機会を得ました。

第10回TOMODACHI - Keio SFC Entrepreneurship Seminar

本プログラムは、次世代のリーダーをアントレプレナーシップの観点から育成します。2020年は、日本全国から599名の高校生、大学生がオンラインセミナーに参加し、事業計画の作り方や効果的なプレゼンテーションの方法などを学びました。

2020 TOMODACHI-STEM @ Rice University Program

本プログラムは、理工学研究に興味を持つ日本人女子大学生を対象に、米国の研究機関と連携して国際共同研究を行うきっかけを提供します。2020年は、オンラインでプログラムを実施しました。

TOMODACHI 障がい当事者リーダー育成米国研修プログラム

本プログラムは、米国での研修とインターンシップを通して、障がいのある日本の若者のリーダーシップおよびアドボカシー能力の向上を目的としています。帰国後、参加者はリーダーシップを発揮しコミュニティに貢献することが期待されます。

TOMODACHI フォスターユース・リーダーシップ・プログラム

本プログラムは、日米のフォスターユースの連携を目指します。2020年には、日本人ユース8名がオレゴン州とカリフォルニア州を訪れ、アメリカの社会的養護施設やプログラムを学びました。

TOMODACHI インターンシップ・プログラム

本プログラムは、アメリカの大学生に日本でのインターンシップの機会を提供します。2020年には、3名の学生が日本での3ヶ月にわたるインターンシップを終え、オンラインで報告会を実施しました。

TOMODACHI カケハシ イノウエ・スカラーズプログラム

本プログラムは、200名のアメリカ人と日本人の大学生を対象に、文化交流を促進します。故ダニエル K. イノウエ上院議員について学ぶ他、日米の相互理解の深化を目指します。2020年は、65名の日本人学生が渡米し、日米関係を学びました。

カタリバオンラインMyproRoom supported by TOMODACHIイニシアチブ

2020年に新設された本プログラムは、社会問題の解決に挑戦する次世代リーダーの育成を目的としています。全国の中高生がオンラインで課題解決に取り組み、その成果を発表しました。

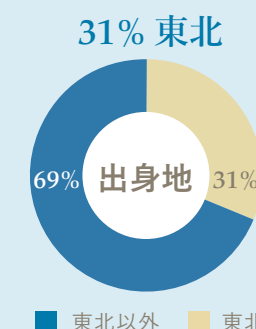
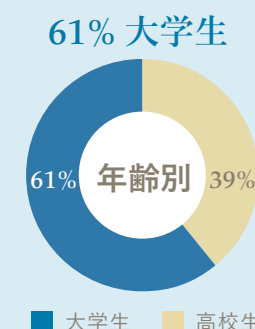
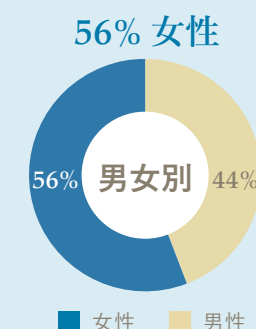
TOMODACHI ソーシャルアントレプレナーシップ・アワードプログラム

本プログラムは、起業家や投資家へ事業計画のプレゼンテーションの機会を含む米国研修を通して、日本の学生起業家のレベルアップを目指します。2020年は、オンラインで研修を実施しました。



革新的な官民パートナーシップ

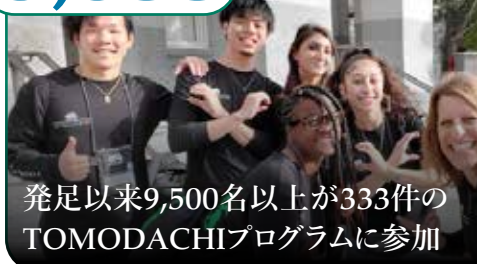
2020年参加者の内訳



865



9,500



45,000



「日米関係は社会問題に取り組むために活用することができ、大切な第一歩は私たちのように草の根レベルで日本人とアメリカ人の間で信頼関係を築くことだと気づきました。」

飯塚咲月



「TOMODACHIプログラムは、差別なく仲間を受け入れる空間作りを促進し、『Blasian』（BlackとAsian）としてのアイデンティティを持った私の体験を自由に語る場を与えてくれました。そして私の人種的背景が社会の中で持つ意味合いについて理解を深める機会を提供してくれました。」

イアン・メイソン



「気軽にアクセスできるコミュニティで、情報交換のできる友人を持つことができる場だと思います。同じ視点を持つ人たちと仲間になりやすいです。TOMODACHIは、『友達』であり、またチャンスでもあります。」

西村勇輝



アラムナイ・プログラムとイベント

関わり続けること

TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、日米関係を担う次世代リーダーが、TOMODACHIの経験を基に、夢を実現するためのスキルや自信を得て、アラムナイ同士が影響を与え合い、より良い世界の構築に貢献できるよう支援を続けています。

TOMODACHIアラムナイ・プログラム4つの柱



社会に出る準備

メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。



クリティカル&イノベティブ・シンキング

既成概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。



市民活動

TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。



つながりと継続性

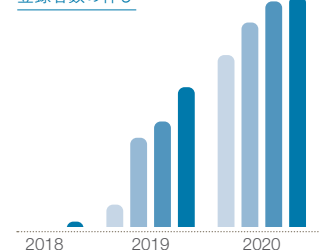
TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、さらにネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人とのつながりを生かしていきます。

TOMODACHIアラムナイ・コネクト

「TOMODACHIアラムナイ・コネクト」は様々な地域や年代そして業界で活躍するアラムナイ同士のつながりから、新たな機会を見出し、ネットワークを広げ、支え合いのコミュニティを構築するアラムナイ専用のオンラインプラットフォームです。



登録者数の伸び



「私のキャリアゴールは、東アジアで女性の権利が公平である市民社会を作ることです。TOMODACHIプログラムは、プロジェクトを作るという点だけでなく、自分のコンフォートゾーンから抜け出すという点でも、私に多くをもたらしてくれました。」

パトリシア・アグタラップ



アラムナイ・プログラムのハイライト



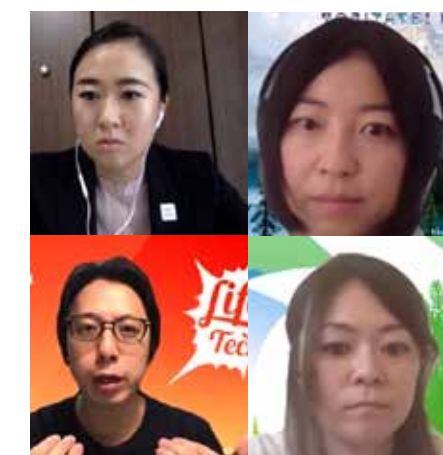
TOMODACHIクリティカル・カンバセーションズ・シリーズ

ブラック・ライブズ・マターが世界的な運動となり、その影響が日本でも広がりを見せる中、この重要な課題を議論する場として「TOMODACHIクリティカル・カンバセーションズ・シリーズ」を立ち上げました。3部構成の本プログラムは、パネル講演や対話を通して、日米の若者たちに学びの機会を提供しました。スピーカー陣が多角的で思考を刺激する見解や知識を共有し、若者同士のディスカッションは安心して自身の経験や意見を交換し、お互いから学びを得る環境を構築しました。



TOMODACHI世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー

グローバル・リーダーシップや市民活動に重点を置き、8月から9月にかけて開催されたこの3日間のプログラムには、東北地域より26名のアラムナイが参加しました。高校生と大学生の参加者は、革新的な企業や非営利団体、政府機関からお招きしたゲストの方々が前例のない状況を打破した事例を学び、グループに分かれて各々のリーダーシップの形を模索しました。

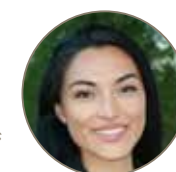


TOMODACHI Industry Insights Revisited: コロナ時代の教育産業について

日本の教育産業に新型コロナウイルス感染症が与える影響について、地域や国全体、起業やイノベーション、未来思考的な観点から4名のスピーカーが意見を交わしました。またコロナがもたらす課題やチャンスについても言及されました。本オンラインセミナーには、100名を超える参加者が集いました。

「TOMODACHIは、新たなことに挑戦する機会を与えてくれました。そして、そこでの学びは私のその後の(映画)制作に不可欠な要素になりました。」

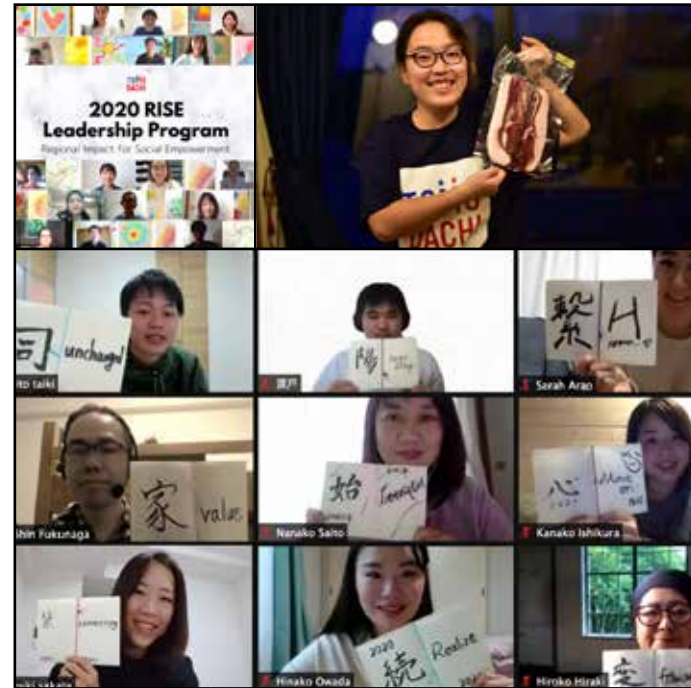
ケイリン・ジョージ





「感染症の影響でなにもできないと思ったが、プログラムを通して、オンラインで活動している同世代がたくさんいることを知りました。考え方を変えるだけで、どんな状況でも様々なことができるのだと気づかされました。」
久保いろは

アラムナイ・プログラムのハイライト



次世代サミット: Reflective(思慮深い)、Resilient(回復力のある)、Revolutionary(革新的な)

次世代サミットは、例年の米日カウンシル・アニュアル・カンファレンスとTOMODACHI世代サミットに代わり、米日カウンシル・シグネチャー・シリーズの一環として12月に開催されました。変化に揺れ、回復力が求められたこの1年から得た学びに焦点を当てた本サミットには、米日カウンシルのU40メンバーやTOMODACHIアラムナイ、渡邊利三寄付奨学生を含む、200名を超える参加者が集まりました。2日間に分けて実施されたプログラムの1日目は一般公開され、幅広いトピックを網羅しました。2日目は「Reflective(思慮深い)、Resilient(回復力のある)、Revolutionary(革新的な)」の三つのテーマをもとにワークショップを開き、議論の場を提供しました。

その他の2020年アラムナイ・プログラム

TOMODACHIアラムナイ・インターンシップ・プログラム | 米日カウンシル主催ビジネス・アドバイザリー・ボードミーティング | TOMODACHIスポンサー・ディナーでのアラムナイによるスピーチ



TOMODACHI Alumni Regional Impact for Social Empowerment (RISE) リーダーシップ・プログラム

この1年間のリーダーシップ・プログラムは、地域レベルでのソーシャルイノベーションに注力します。各地域の「地域リーダー」と「地域メンター」に選ばれたアラムナイは、社会課題の発見および解決に向けて取り組み、そのためのイベント企画や地域のアラムナイ・コミュニティのつながりをさらに強化する力を育みます。アラムナイとしてこれまでのTOMODACHIプログラムで得た経験をもとに、さらなるトレーニングとメンタリングを通じてリーダーシップ・ジャーニーを続けていくのです。アラムナイ・コミュニティの活性化のため、米国大使館・領事館のサポートを得て、6つの地域で活動します。



渡邊 心海

「TOMODACHIは成長するために自分を表現することの大切さを教えてくれました。」

渡邊心海氏は、第9回U.S. Embassy-Keio SFC-TOMODACHI Entrepreneurship Seminarのアラムナイです。2020年2月に、プログラムで優秀な成績を収めた学生の一人として、シリコンバレーへのスタディツアーに参加しました。魚がプラスチックを誤飲しているというニュースを目にしたことをきっかけに、魚が嫌う成分を含んだビニール袋の開発を企業と共に始めました。

魚が嫌う成分を含んだビニール袋の開発プロジェクトを始めたきっかけは何ですか？

小さい頃から海の近くに住んでおり、散歩のついでによく水族館に行っていました。自分の生活の中にはいつも魚があり、動物の中でも魚は身近な存在でした。ニュースで魚がプラスチックを食べてしまっているという問題にショックを受けた事が活動を始めるきっかけになった一番の理由です。

U.S. Embassy-Keio SFC-TOMODACHI Entrepreneurship Seminarに参加した経緯と、その後のプロジェクトの発展について教えてください。

自分を表現することの大切さを教えてくれた存在です。アメリカ研修中、私たちは自身のアイデアを積極的に発信する多くの起業家に会いました。自分きっかけは、ビジネス・グランプリの方から紹介されたことです。自分で調べて興味が湧きました。最終的に選考で選ばれた人はアメリカのスタディツアーに参加できるということを知り、すごいコンテストだという印象を受けました。選考に通ったらメンターや大学生と一緒に自分のアイデアをブラッシュアップできると知り、今までそういう機会がなかったので、よい機会だと思いました。

学校でチームを組み、休み時間や放課後もずっと話をしてお互いのことをより理解し合おうと努めました。一番気持ちが一つになった感じがしたのは、TOMODACHIプログラムの最終日に発表会に進めるチームに選出され、みんなで喜び合った時でした。他の大学生チームを含め、多くの人からも応援してもらえました。

あなたにとってTOMODACHIとは？

自分を表現することの大切さを教えてくれた存在です。アメリカ研修中、私たちは自身のアイデアを積極的に発信する多くの起業家に会いました。自分きっかけは、ビジネス・グランプリの方から紹介されたことです。自分で調べて興味が湧きました。最終的に選考で選ばれた人はアメリカのスタディツアーに参加できるということを知り、すごいコンテストだという印象を受けました。選考に通ったらメンターや大学生と一緒に自分のアイデアをブラッシュアップできると知り、今までそういう機会がなかったので、よい機会だと思いました。



メイソン・ウィリアムズ

「TOMODACHIから得た学びや経験を早く社会に還元したいです。」

メイソン・ウィリアムズ氏は、2017年のTOMODACHI大和ハウス学生リーダーシップ会議のアラムナイです。また、2018年には日米学生会議(JASC)に参加、翌2019年には一行を率いる形で、日米両国の学生と共に日本中を旅しました。

TOMODACHIプログラムをどのようにして知りましたか？

フェアフィールド大学では、外国語の単位取得のみを目的として日本語を受講しました。2017年のTOMODACHI大和ハウス学生リーダーシップ会議については教授から教わり、その時に初めて、日米関係の領域やその長年にわたる関係について、より深く学ぶべきことがたくさんあることに気づき始めました。この経験は、私が今までに参加した中で最も重要で有意義な会議となりました。翌年と翌々年に参加したJASCプログラムを通じて、私は日本の言語、食べ物、人々に魅了されました。そして最も重要なことに、アメリカ人の一員として、米国と日本との関係性、その日米関係の計り知れない深みと疑いようのない強さに感銘を受けました。

TOMODACHIプログラムはあなたにどのような影響を与えましたか？

新しいことを学んだり、今でも友人と呼ぶことができる知的でやる気に満ちた多くの人に出会えたことはもちろんのこと

と、その会議への参加そのものが私の人生の方向性を大きく変えました。TOMODACHIは、私の大学生活を通して毎年、日本に関する私の希望と夢を支えてくれました。日本に戻り、早く社会に還元したいです。

2020年はどういう年でしたか？

世界の暗さを鑑みると、希望に満ちた未来を想像することは難しくなっています。2011年の東日本大震災を機に、TOMODACHIイニシアチブは誕生しました。その時と同様に、このパンデミックと人種的平等を求める運動から、新しい組織や素晴らしい人々のグループが結成され、より明るい未来に向けて協働していくことと信じています。





今野 涼太

「私にも地域復興に寄与する義務があるんだということに気づかされました。」

今野涼太氏は、TOMODACHIサマー2012コカ・コーラホームステイ研修プログラムのアラムナイで、以来多くのTOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムに参加してきました。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業し、スポーツを通じた地元の活性化を目指しています。

東日本大震災は、あなたの生活にどのような影響を与えましたか？

当時15歳だった私は、陸上競技に力を注ぐ高校生でした。震災の日、いつものように高校に行って練習をしようとしていた時に地震が起きました。これまで経験したことのない揺れでした。私が住んでいた浪江町は原子力発電所から10kmの範囲内にあり、翌日には避難することになりました。



避難先で新しく高校生活が始まり、生活にも慣れて落ち着いてくると、自分も震災復興のために何か出来ないか、町のために貢献したいという思いがこみ上げてきました。しかし、当時の高校2年の自分では、ボランティアに行く手段もなく自身の無力さを痛感しました。

TOMODACHIプログラムから得た最大の収穫は何ですか？

TOMODACHIの経験で、一番

印象に残っているのが、当時の米国上院議員のダニエル・イノウエ氏とお会いし「義務と名誉」の話を聞いたことです。イノウエ氏は、日系人であることから戦時中に迫害を受けるも、米国に忠誠を誓い、自ら米軍へ志願し、米国人としての義務を全うし、日系人としての名誉を守った方です。その話を聞いた時に、自分も一人の浪江町民として、地域を復興させる義務があるんだということに気づかされました。

あなたの地元、浪江町の未来像はどのようなものですか？

現在、浪江町の職員として働いており、やっと自分の「義務」を果たせるスタートラインに立つことができました。これからもTOMODACHI世代の一人として、TOMODACHIプログラムを通して培ってきた経験を活かし、アラムナイ・コミュニティの仲間と共に、地元復興に取り組んでいきたいと思います。



レイチェル・ブルックス

「自分の気持ちを高めてくれるものに気づき、路線変更を恐れないことが大切です。」

レイチェル・ブルックス氏は、2018年のTOMODACHI-Mitsui & Co. Leadership Programに米国代表団の一員として参加しました。ブルックス氏は、英国ブラッドフォード大学の国際関係および安全保障学科専攻の修士候補生で、主に研究している分野は民主主義、企業の社会的責任(CSR)、技術政策、特に偽情報への対応です。

民主主義や平和構築、安全保障に関して熱心に取り組むようになった経緯を教えてください。

私は学部で公共政策について学びましたが、主に教育政策と社会言語学に関するものでした。教育というものは世界各国で違うと認識していましたが、他の国々に行くチャンスはありませんでした。そんな中、卒業後に韓国の済州島で2年間、英語を教えるチャンスを掴みました。韓国で英語を教える中で、米国について私の学生たちがどう考えているのか、また、その理由を知ったのは、大きな驚きでした。それで帰国後、大きな社会問題の解決にあたる、異なる分野の役割についてもっと学びたいという思いにかられたのです。



偽情報と信頼のおける情報を見分ける個人の責任についてどう考えられますか？

有害で不正確な情報を故意に拡散する、たちの悪い人たちが数多くいます。それがこの問題を非常に重要な研究分野にしている要素であると言えます。言論の自由はコインの裏表みたいなものです。自由な会話や考えの共有を尊重することは、民主主義にとって非常に重要です。しかしそれは同時に、悪意を持

った人々が誤った情報を広める機会を作り出すことを意味します。一般的にはデジタルプラットフォームや政府がこの問題について大きな役割を担っていると考えていますが、一方で、情報環境に接する私たち市民には、優れた電子文献やメディアリテラシーに関する情報が多く存在しており、私たち自身の知識を深めることができるのです。

自分の経験を振り返って、学生や若手社会人にアドバイスしたいことは何ですか？

自分を本当に突き動かすものを見つけることです。韓国で英語教育に携わっていた頃から現在の研究生生活に至るまで、私は自分が情熱を傾けられるテーマを探り続けてきました。偽情報や民主主義の課題以外に情熱を傾ける人もいます。自分の関心のあることに挑戦し、路線変更を恐れないことが大切です。自分の気持ちを高めてくれるものや、繰り返し気になる課題に気づきましょう。自分が不満だと思っている難しい問題を見つけて、その問題を解決するために何が出来るか考えてください。



米日カウンシル—ジャパン理事会

(2020年12月末日現在)

代表理事 スザンヌ・バサラ
米日カウンシル 会長兼CEO

代表理事 ローヤン・ドイ
コーポレート ガバナンス スペシャリスト

執行理事 谷 美由紀
モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社 エグゼクティブディレクター

監事 片山 隆一
スタン・コヤナギ
オリックス株式会社 取締役 兼 常務執行役 グローバルジェネラルカウンセル

ゲイリー・S・モリワキ
ウィンデルズ・マーク・レイン・ミッテンドルフ法律事務所 パートナー

大出 隆
学習院女子大学 国際文化交流学部 非常勤講師

ジェニファー・ロジャーズ
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社 ゼネラル・カウンセル アジア

米日カウンシル—ジャパン評議員会

(2020年12月末日現在)

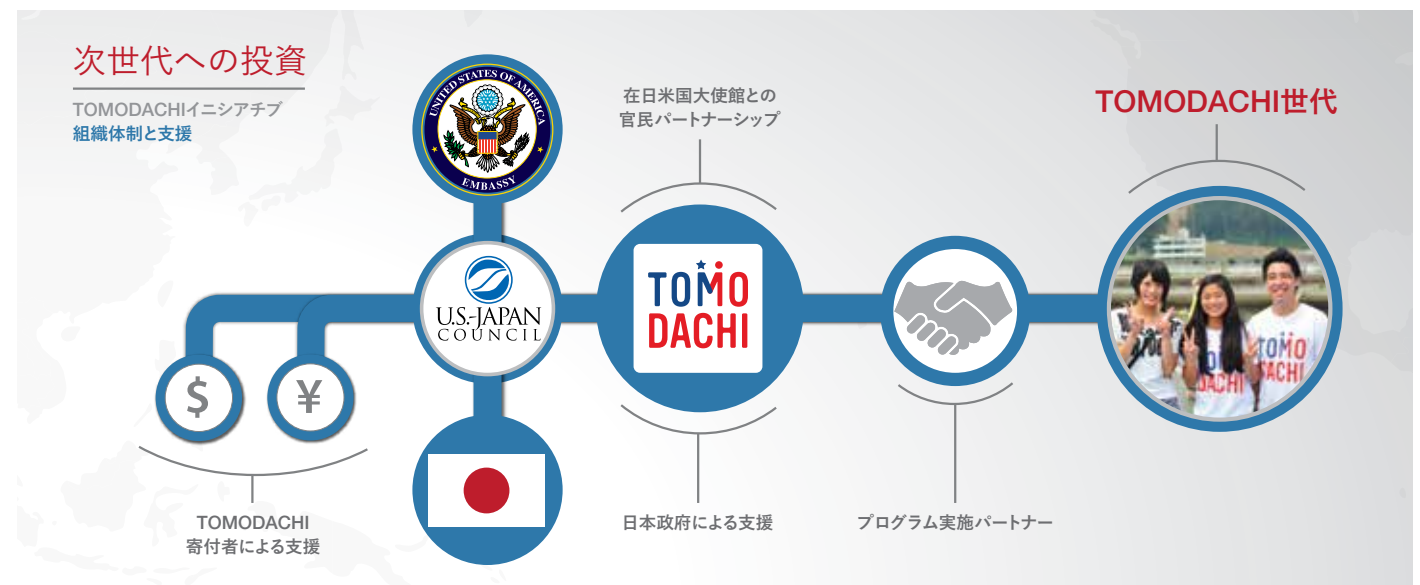
会長 キャシー 松井
ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長

藤井 ダニエル 一範
トラスト・キャピタル株式会社 代表取締役社長

ウィリアム・アイアトン
ソニー・ピクチャーズ インターナショナルプロダクションズ 日本代表

大河原 愛子
株式会社デルソーレ 代表取締役会長

高田 ヘンリー 聖一
シンテックジャパン株式会社 代表取締役



感謝を込めて

ファウンディング・ストラテジック・パートナー

(2012年創立当初より\$1,000,000以上)



ストラテジック・パートナー

(\$1,000,000以上)



協賛企業

(\$100,000 から \$1,000,000)



「今までは失敗を恐れたり、大きすぎる目標に対して諦めてしまっていたけれど、プログラムで様々な挑戦を乗り越え、いろんな人の体験を聞いて、失敗を気にするより自分から挑戦し行動に移すことの重要性に改めて気づかされました。」

佐藤清華



支援企業

(\$10,000 から \$100,000)

Evolution Financial Group
エクソンモービル・ジャパン合同会社
早坂穀税理士事務所
株式会社ホテルオークラ東京

株式会社帝国ホテル
公益財団法人 公益法人協会
あずさ監査法人

納野国際会計事務所
オリック・ヘリントン・アンド・サトクリフ
外国法事務弁護士事務所
トライコー株式会社

TOMODACHI運営へのご支援

次世代リーダーを育成するTOMODACHIイニシアチブの使命に共感し、その運営と組織基盤強化のためにご支援いただいているパートナー企業の皆さまに、心より感謝申し上げます。



武田薬品工業株式会社より、TOMODACHIイニシアチブの運営・管理面の強化のためのご寄付をいただいています。組織が効率的にそのミッションを達成するためには、専任スタッフと十分なリソースが必要です。武田薬品工業株式会社からの多額の寄付金により、参加者の人生を変えるようなプログラムを開発し、TOMODACHI世代を育成し、強固で永続的な日米関係構築に取り組むことが可能となっています。

高まるTOMODACHIの広がり

さまざまな形でTOMODACHIの知名度を高め、幅広くご周知いただいております数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。



TOMODACHI ロゴを機体にデザインした全日空機



羽田空港内の各所に設置されたTOMODACHIの看板

実施運営パートナー

TOMODACHIではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2020年は、以下のパートナーからの支援の下、TOMODACHIプログラムが実施されました。

パークリー音楽大学 | Children's National Medical Center | Cultural Vistas | ニューヨーク州立ファッション工科大学 | 一般財団法人SFC フォーラム | 特定非営利活動法人International Foster Care Alliance (IFCA) | 公益社団法人日本国際生活体験協会 (EIL) | 一般財団法人日本国際協力センター | NPO法人じぶん未来クラブ | 認定NPO法人カタリバ | ローラシアン協会 | ルミナラーニング | 一般社団法人東京ニュービジネス協議会 | 認定NPO法人底上げ | パーソنز・ニュー・スクール・フォー・デザイン | ライス大学 | テンプル大学 | カリフォルニア大学バークレー校 | マサチューセッツ大学ボストン校 | 米日カウンシル アウトリーチ&アライシップ コミッティー | ワシントンセンター | 一般社団法人WIT (World in Tohoku)

TOMODACHI決算概要

TOMODACHI累計寄付額 (各年)(米ドル建て)
米日カウンシル(連結)

TOMODACHI への寄付金および誓約寄付金	2011-2019	2020	2021-23 (誓約済み)	TOTAL
米日カウンシルージャパン	\$32,666,856	\$1,990,293	\$1,927,665	\$36,584,814
米日カウンシル (U.S.)	22,927,477	259,113	300,000	23,486,590
現物寄付 (U.S.およびジャパン)	5,239,611	0	20,000	5,259,611
寄付金および誓約寄付金合計	\$60,833,944	\$2,249,406	\$2,247,665	\$65,331,015



@TOMODACHI



@USJapanTOMODACHI



@USJapanTOMODACHI



@TOMODACHI_initiative

tomodachi.org